

徳泉寺報

No.0034

発行
令和2年8月
発行元 徳泉寺
仙台市宮城野区
榴岡3-10-3
(022)297-4248
tokusenji.send
ai@gmail.com

亡き人を案ずる私が亡き人に案ぜられている

徳泉寺にもお盆のお参りの方がたくさんお越しになります。

(東本願寺出版 お盆より)

小さなお孫さんと一緒に来られる方、ご家族総出でお参りされる方、早朝静かな時間に手を合わせる方。今はどうなっているかわかりませんが、仙台のお花消費量が日本でも有数だと聞いたことがあります。これはもしかしたら、たくさんの方が亡き方のお弔いにお花を供えられることも関係しているのかもしれない。本家だけでなく、ご親戚や友人の墓前にもお参りし、お花を供える。お盆になるとたくさんのお寺を回ってお参りをして歩くというお話を以前からよくお聞きしたものです。

亡き方を弔う(とむらう)という時、古くは「訪らふ(とぶらふ)」という書き方もしたそうです。私たちが亡き人を訪れていく。その言葉やお姿を訪ねながら、私たちへの願いに出あう大事な場なのでしよう。大切な方々は、私たちを案じていて、いきいきと生きていくことを願ってくださっているのではないのでしょうか。私はどんな身を生きているのか、実は私自身と出あいな場所でもあるのだと思います。



お盆のお飾り
切籠灯籠

徳泉寺はむすびめを応援しています

「自分のことが好きですか」そう聞かれて、「はい」と言える人はどのくらいいるだろう。もやもやした生きづらさが消えない。やりたいことがあるけれど、チャレンジできない。そんな気持ちを抱えた中高生たちがたくさんいます。

「むすびめ」はそんな中高生の「過去」「今」「未来」をサポートするため、「やりたい」を整える場所を提供したいと考えています。そんな「むすびめ」がすることは、生きる力を育むワークショップ。一人でも「生きる力」が身についたと言ってもらえるような活動をしていきたいと思ひます。

「むすびめ」活動趣旨文より

「むすびめ」はこの春誕生したばかりの新しいボランティア団体です。主催は大学一年生のみなさん。まだ、現役高校生だったころから、中高生に学校でもない、家庭でもない居場所づくりをしたい、と準備を始めていました。現在、コロナの影響で大学がオンライン授業になったりと自分たちも大変な中、それでも何かできることはないか、と模索しています。このお盆期間は、徳泉寺の同朋会館を会場に小中高生の学びのお手伝いをしてくれました。

徳泉寺ではお寺に集って来てくださる皆さんと共に、いきいきと生きるということをお願いとして、仏の教えを聞きながら日々活動したいと思ひています。中高生の「過去」「今」「未来」をサポートしたい、「やりたい」を整える場所をつくりたいという「むすびめ」の皆さんの思いを聞かせてもらった時、それってお寺が目指していることと一緒じゃない?と感じました。若い世代の方たちがこうして熱いエネルギーを持って自分よりちよつと後輩の生き方を支えたい、と考え行動している姿に素直に感動し、同時に私には自分に言い訳をしてなかなか実現できないでいることがあるのではないか、まだまだお寺として皆さんに関わる方法があるのではないか、と目を開かされた思ひがしました。

これからも「むすびめ」がつくる場に私たちも参加させてもらいながら、ともに歩んでいければと思ひています。

